

令和 2 年 6 月 28 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02591

研究課題名(和文)旧満洲地域の都市歴史文化地図シリーズ第二分冊「ハルビン編」の制作

研究課題名(英文)Production of the historic culture city map series second separate volume "Harbin edition" of the former Manchurian area

研究代表者

木之内 誠(Kinouchi, Makoto)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：50195327

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：中国北辺の国際都市ハルビンの歴史文化地図の制作のため、研究実施期間中に計5回のハルビン現地での実地調査をおこない、文献的・映像的な資料を蓄積した。これに、国内研究機関等で収集した旧地図資料ほかの文献資料からの諸情報を総合して、ハルビンの歴史的建造物、歴史的な場所などについての、総合的なデータベースファイルを構築した。これらの情報に基づいて、OpenStreetMap(OSM)提供の市街地図をベースマップとした歴史文化地図の制作を開始した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国、ロシア、日本、朝鮮半島の人々の共同体としての記憶が重なりせめぎ合う国際都市ハルビンについて、多元重層的な文化の相貌を地図の上に可視化し、この地域に対してさまざまな学問的、あるいは実際的な関心を有する人々と共有しうる、多様な時空景観的情報のプラットフォームの一端を構築することは、歴史文化的研究に止まらず、日中関係史、都市と建築、あるいは「コンテンツ・ツーリズム」的な関心にも応えうる、多領域を横断する学際的な成果が期待される。

研究成果の概要(英文)：For the production of the history culture map of international city Harbin of the Chinese north, we performed five times of on-the-spot surveys in the Harbin field in total during a study enforcement period, and accumulated documents and file films. After considering the information from the old map document and other documents which we collected in domestic research organizations, we built the general database file about landmark architectures and historic places of Harbin. Based on these information, we started the production of the history culture map which based on the map offered by OpenStreetMap (OSM).

研究分野：中国文学

キーワード：歴史地図 ハルビン 都市 満洲

1. 研究開始当初の背景

(1) 空間性ないし〈トポス〉とその記憶をめぐる関心は、歴史学のみならず人文科学一般に通底する普遍的な問題関心として、文化研究の各領域において高まりつつあったと見られる。

各国文学の研究においても、文学的な生産と受容の活動をめぐる実践的な場としての都市空間がそれぞれに果たした個別具体的な意味の解明には、新鮮な喚起力が感じられた。

広い意味での文学的な諸活動の背景となる都市の文化全体のパースペクティブのなかに位置づけられることによって、連関的な視野の中での新たな発見が期待しうるものと考えられ、そして、場所の経験と〈記憶〉との関わりを視野に入れることは、その有効な一手段となりえると思われた。

(2) 研究代表者の木之内は、近現代中国文化の中心の一つであり続けた都市上海について、『上海歴史ガイドマップ』（1999,大修館書店）を制作刊行し、日中両国の専門的研究者をはじめ多くの読者に恵まれた。そして、その後生じた都市景観上の大変動を反映するため、増補改訂版を2011年12月に刊行した。そして、同じく2011年からは、新たな科研費プロジェクトとして、3名の研究分担者を迎えて、「旧満洲地区の都市歴史地図シリーズ第一分冊大連編の制作」を開始した。大連、旅順での現地調査を完了し、地図自体の制作も順次進行して、地図冊刊行へのめどが立った時点で、計画されたのが、同シリーズの第二分冊としてのハルビン編であった。

(3) 旧満洲地域の主要都市の建築物や都市計画についての調査研究の成果は、すでに日中双方の研究者による『中国近代建築総覧』シリーズ(1992-)や、藤森照信、汪担監修『全調査 東アジア近代の都市と建築』(1996)などに示されており、また、越沢明『哈爾濱の都市計画』(1988,2004)など、各国の勢力がせめぎ合う中でのモザイク的な都市の生成を詳細に分析して跡づける労作も刊行されている。しかし残念なことにこれらの成果にも、実際に現地を訪ねて、自分の脚で歩き回ろうとする際に役立つ十分な精度をそなえた地図は、提供されていなかった。この不足を補うべく、地図制作という実際的なツールを提供する基本作業が要請されていた。

2. 研究の目的

相貌とその変容を可視的に提示すべく、各種建造物の空間的配置や、諸事象の生起した「記憶の場所」の数々について、文献および実地の調査などによって、関連情報の収集とデータベース化をすすめ、これをもとに今後の研究の進展に資する基本的工具のひとつとしての都市歴史文化地図を制作刊行する。本研究ではシリーズ第一分冊の大連編に続く第二分冊として、北辺の国際都市ハルビンを対象として、専門的研究者の参照にたえうる資料性ととも、実際に旅行者が携えて現地を歩く際の実用性を兼ね備えた地図冊を制作する。

中国、ロシア、日本、そしてまた朝鮮半島の人々の共同体としての記憶が重なりせめぎ合う場所でもある都市ハルビンについて、その多元重層的な文化の相貌を地図の上に可視化し、この地域に対してさまざまな学問的、あるいは実際的な関心を有する人々と共有しうる、多様な時空景観の情報プラットフォームの一端を構築することが、この研究計画のめざすところである。

今回の研究計画の中では、長期的な構想として計画された「旧満洲都市歴史文化地図シリーズ」制作の第二編としてハルビンを対象とする作業が計画されたが、すでに述べたように、ハルビンについても、これまでに一定程度以上の詳細さを持った本格的な都市歴史マップは、中国においても日本においても制作刊行されていなかった。本研究は、その欠落をうめて、文学史研究に止まらず、日中関係史、都市と建築、あるいは「コンテンツ・ツーリズム」的な関心にも応えうる、多領域を横断する学際的な成果が期待される。

急激な経済的発展につれて、開発行為にともなう旧市街の街並み景観の大規模な改変が各地で進行しつつある中国の現状からも、本計画がすみやかな成果をあげることが期待される。そして一方で、「満洲国」時期のハルビンを自らの経験として知る人々の生きた記憶も、時の流れの中でいよいよ消え去ろうとしている。そうした意味においても、この地図の早い完成が、期待されることとなる。

3. 研究の方法

研究計画の実施にあたって、以下の3段階の作業を平行しつつ順次進行させていった。

(1) 文献収集などの資料調査と整理

文献収集などの資料調査と整理

ハルビンの旧地図、関連文献、先行研究などの収集、調査と整理、分析のうえで、関連資料のデータベース化を図る必要があった。十九世紀末以来のハルビンに存在した文化関係の施設を中心とする建築物（図書館、博物館、出版社、書店、劇場等）をはじめ、政治、経済、軍事など多方面にわたる歴史的な場所、出来事の現場などの所在地情報とその情報源、および新旧の地図

資料、商工録など工具書資料類について、エクセルファイルによるデータベース化を進めた。

(2) 実地踏査による現況の把握と検証の作業

文献的な資料整理の作業と並行する、現地での実地踏査による現況把握と検証の作業を進める。現地調査では、地図上に示されるべき歴史性をおびたランドマークについて、その界隈性ないしエリア的な脈絡とともに現況を把握し、これを画像情報としても記録し、蓄積した。各種施設などに関する項目の整理と解説の執筆、関連年表などの執筆制作が、並行して準備される。

(3) 地図本体の作成作業

上の作業の成果を基礎とした歴史地図の作成および公開の準備。歴史的な情報を現況の地理情報に重ね合わせて、コンピュータ・グラフィック・ソフトにより歴史地図を作図する。建造物については、その建造時期によって、疑似3D的描画を施し、臨場感に富む図面とした。これに項目解説と関連年表、索引などを付して、出版物としての刊行をめざした。

4. 研究成果

(1) 資料調査、実地調査の実施による情報の蓄積

① ハルビン現地での各種調査

4年間の研究実施期間中に、計5回のメンバー合同のハルビン現地調査を行い、調査用地図への現場情報の記入、映像による記録をすすめた。

各回調査の概要を以下に記す。

・2016年8月29日-9月5日

黒龍江省図書館・蕭紅文学館、黒竜江省博物館、南崗博物館、ユダヤ新会堂（ハルビンユダヤ歴史文化記念館）、呼蘭区蕭紅故居、呼蘭文廟で見学調査。南崗区東大直街北西側、道里区中央大街、南崗区西大直街北西側、道外区靖宇街周辺を踏査。

・2017年8月28日-9月3日

東北烈士紀念館、安重根義士紀念館、黒龍江大学図書館陳列室で見学調査。

ハルビン駅北東側、中心広場北側、道里区中央大街東側、南崗区東大直街南東側、南崗区西大直街南東側・北西側、馬家溝一帯を踏査。

・2018年3月15日-20日

南崗博物館、東北抗聯博物館、中共黒龍江歴史紀念館、旧聖ソフィア寺院、極楽寺、文廟、侵華日軍七三一部隊罪証陳列館で見学調査。

中央広場東側一帯、旧八区、長青公園、尚志大街東側、スターリン公園、松花江鉄道橋、松浦大橋、兒童公園、文化公園、靖宇街東端部を踏査。

・2018年9月5日-9月14日

中東鉄道印象館、関道遺址公園、香房区香房站、ハルビン烈士陵園、旧ハルビン学院址、太陽島ロシア民族村、道外区蕭紅紀念陳列室、省図書館・蕭紅文学館、南崗区ハルビン天主堂、中共満洲省委機関旧址、道里区ハルビン車輛廠旧址で見学調査。

道外区靖宇街南側、大新街北側、靖宇街西部、南崗区中山路北東側、道里区経緯街南西側、中央大街東側を踏査。

・2019年9月12日-19日

省博物館、南崗博物館、ハルビン規劃展覽館、太陽島ロシア民族村、安重根義士紀念館（2019年3月ハルビン駅構内に移転再開）、李兆麟將軍紀念館、革命領導紀念館、極楽寺、聖母安息教堂、劉少奇活動旧址で見学調査。

道里区尚志大街東側、中央大街周辺、経緯街以南、南崗区西大直街南東側を踏査。

この間、これらの現地踏査と平行して、黒竜江省図書館、黒龍江大学図書館、ハルビン中央書店などで関連文献資料の調査、収集、購入につとめた。黒竜江省図書館蕭紅文学館館長章海寧氏、北方文芸出版社社長宋玉成氏ら現地の学術・文学関係者と交流を深めた。

なお、2020年3月に予定していた第6回の現地調査は、コロナウイルス感染症流行のため、中止を余儀なくされた。



図1 調査用の基図に現地情報を書き込む
道里区中心部

② 国内機関での資料調査

2017年3月および2019年11月に、京都の国際日本文化研究センターに赴き、所蔵するハルビンの旧地図資料および絵葉書資料ほかを閲覧し、コピーサービスにより持ち帰り、デジタルデータ化の作業をおこなった。また、すでにデジタル化済みの地図資料のファイルでの提供を受けた。また、副所長劉建輝氏、青島の歴史地図の制作を計画している中国からの留学生らと研究上の交流を行った。

2019年3月には、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターで資料調査を行うとともに、同センターが所蔵資料より編集したハ爾濱商品陳列館発行『露亜時報』1919-1932の記事索引ファイルの提供を受けた。

2019年11月には、舞鶴引揚記念館で、展示資料および関連図書資料の閲覧・調査を行った。

(2) 基礎的な項目データベースの整備

上記の各種の調査を通じて、集められた資料自体、および、ここから抽出される地図上に記載される項目データについての、データベース化の作業が、地図制作に先立つ基礎的な作業となる。

この作業のなかで、新旧の道路名、各種機関・建造物などについての項目を選定し、位置情報、建造年代など関連する各種の情報を分類整理して記入していくとともに、新旧の地図資料、関連図書、雑誌論文、関連ウェブページ、画像資料などのデータベース化による整理を同時にすすめた。この基本資データベースファイルは、オンラインデータとして各自が同じファイルにアクセスして、資料の更新にあたって競合・上書きなどの事態が生じないようにした。エクセルファイルとして作成されたこのデータベースは、

F2	文物名	執筆項目	旧称1	旧称2	旧称3	旧称4	現況	現称2	行政区	現地番	現存地図	経緯度	建造・創設年
1	球保健建築	哈爾濱万国博覧會	文化・文化	哈爾濱電報人大学			遺蹟	中央大街10号					1925年
1	球保健建築	哈爾濱一等郵局		通遼区消防局			遺蹟	中央大街10号					1914年竣工
		哈爾濱大英銀行		滿鐵支那銀行			遺蹟	中央大街10-21号					1925年以前
		哈爾濱郵政總局		哈爾濱郵政總局			遺蹟	中央大街10号					1927年竣工
		哈爾濱銀行		大連支店			遺蹟	中央大街102-106号					1925年竣工
1	球保健建築	哈爾濱銀行		哈爾濱銀行			遺蹟	中央大街115号					1917年竣工
1	球保健建築	交通銀行		交通銀行			遺蹟	中央大街115号					1917年竣工
1	球保健建築	万国平業公司		阿波羅印刷局			遺蹟	中央大街138-141号					1919年竣工
1	球保健建築	哈爾濱西行通車分行		哈爾濱西行通車分行			遺蹟	中央大街137号					1916年竣工
		哈爾濱電車本架安通天公司		哈爾濱電車本架安通天公司			遺蹟	中央大街135号					1906年竣工
		建設局		建設局			遺蹟	中央大街135号					1907年竣工
1	球保健建築	通遼銀行	俄國平民會	俄國平民會			遺蹟	中央大街154号					1909年竣工
		哈爾濱印刷局		哈爾濱印刷局			遺蹟	中央大街154-161号					1909年竣工
1	球保健建築	万国洋行		滿鐵支那電報局			遺蹟	中央大街164-171号					1922年竣工
		滿鐵支那電報局		哈爾濱印刷局			遺蹟	中央大街162-169号					1922年竣工
		建設局		建設局			遺蹟	中央大街162-169号					1924年竣工
1	球保健建築	哈爾濱印刷局		哈爾濱印刷局			遺蹟	中央大街171-171号					1914年竣工
		第一地籍事務所		哈爾濱市地籍事務所			遺蹟	地籍街1号					1906年竣工
1	球保健建築	日本銀行		哈爾濱市地籍事務所			遺蹟	地籍街1号					1916年竣工
		水産		哈爾濱市地籍事務所			遺蹟	地籍街11号					1917年竣工
1	球保健建築	国立印刷局		哈爾濱市地籍事務所			遺蹟	地籍街16号					1917年竣工
1	球保健建築	印刷局		哈爾濱市地籍事務所			遺蹟	地籍街18号					1923年

表1 項目データベースファイル directory の冒頭部分

directory, road, books, papers, web, list の6枚のシートからなり、主要なシートである「directory」シートの記入項目として、地図記入確認、資料コード、分類コード、執筆項目・担当、旧称1~4、現称1、現称2、旧建造物存非、旧地番、行政区、現地番、既存地図グリッド、経緯度、建造・創設年、設計・施工、資料ソース、記事、作品中の描写言及、資料画像、撮影画像、現地踏査日、入力者・入力日の25の項目を立てた。

『中国近代建築総覧・ハ爾濱編』1992および「哈尔滨市不可移动文物名录」掲載データを基礎として、区部約800件、周辺市県計およそ1,200件のデータを集積した。これに順次各種資料を総合して、地図掲載物件の基礎資料としていく作業を継続する。

(3) 地図の制作

以上の基本的な資料整理、整備の作業の進捗と平行して、地図の制作作業を進行させた。

今回の歴史地図制作にあたって、ベスマップとして使用したのは、オンラインで公開され、

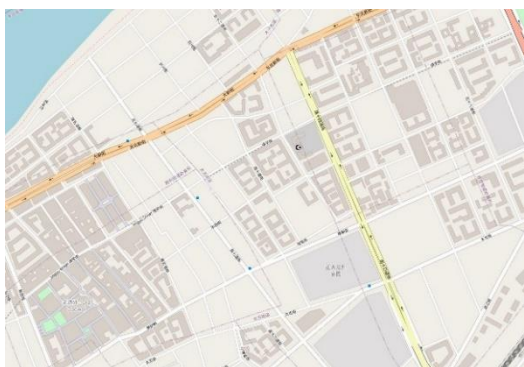


図2 ハルビン市道外区の中心部分 OpenStreetMap 2020/6/28 現在



図3 OSM 上でのトレース

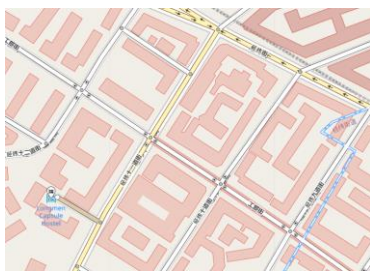


図4 OSM 編集画面に反映されたトレース結果

地図利用に関する複雑な著作権の問題に抵触することなく、オープンな制作と利用を可能にする参加型の地図制作サイト OpenStreetMap (OSM) 上のハルビン市街部分の地図である。OSM では、オープンデータベースライセンス (Open Database License, ODbL) のもとでの、地図画像データの共有、改編、利用が認められ、編集作業を経た地図画像も、「© OpenStreetMap 協力者」の地図コピーライトのもとに公開が可能である。そして、OpenStreetMap が同サイト上で公開している地図自体が、登録ユーザーにより常時アップデートがなされる参加型の制作過程を経たものである。図2に示したハルビン市街道外区中心部の例では、左下部分は、本計画の開始以前から、制作公開されていたものであるが、右上の部分の建造物の形状は、本研究計画の遂行過程で、筆者が作図し公開したものである。

ここまでの作業過程を簡単に紹介する。図3では、OSMの編集画面で、提供されている各種の



図5 illustrator による疑似 3D 化と建築年代別の着色例

衛星画像から、建築物の形状などをトレースし、その根拠情報とともにアップロードする。その結果が図4の形で OSM の編集画面上に反映される。

以降の作業が、

この OSM 画像をベースマップとして利用して、本研究計画の目的とする歴史文化地図作成の過程となる。まず、必要な範囲の OSM 地図画像を編集画面からエクスポートし、そのデータファイルを、QGIS などの地理情報システムソフトを介して、グラフィックソフト illustrator に移行させる。図5に示したような、建物の立体表示や、建築年代による色分け、基本資料データベースに集積、整理されたさまざまな関連文字情報の図上への表示などの作業が重ねられる。現段階では、この作業が進行中である。図6は、現時点でのハルビン歴史地図の図郭割案である。市街中心部では5000分の1図10幅、周辺部では7000分の1図が9副、さらに呼蘭区に1幅、郊外を含む広域図に数幅が割り当てられる計画である。

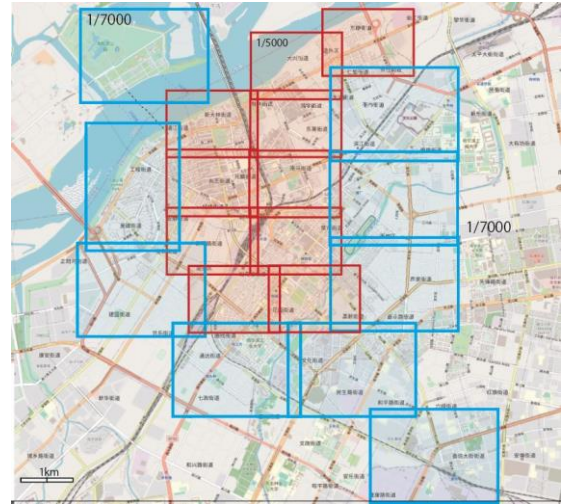


図6 ハルビン歴史地図の図郭割プラン

(4) 関連する研究の成果

① 地図ハルビン編の制作に先立って、本科研グループによって「旧満洲地区の都市歴史地図シリーズ第一分冊大連編の制作」として計画が進行していた大連・旅順の歴史地図が、完成、公刊された。刊行後まもなく寄せられた一読者からの問い合わせに回答して、地図が再現していた建物の平面図形の特徴から、読者の父君の旧宅の場所が確定された。(図8参照)

② ハルビンの歴史文化についての関連研究として、研究分担者の平石は、19世紀から20世紀初頭における中国東北地方における文芸活動に関心をもち、考察を続けた。特にロシアの影響を強く受けたハルビンにおける左翼文芸活動に対しては、以前より深い関心を持ち続けており、近年は、ハルビン出身の女性作家蕭紅とその周辺の人々の活動について、彼らの活動の様相をよく知ることの出来る作品の翻訳を行いながら、その注釈という形で検証を行ってきた。

成果としては、蕭紅の散文「魯迅先生の思い出」(2015, 2016)に続き、夫蕭軍との書簡集(2017, 2018「東京から」、及び2019「北京——上海」)の翻訳と注釈、彼らのハルビンにおける文芸活動の詳細を知ることが出来る蕭紅『商市街』の部分訳(2020)などがある。さらに、彼らの活動のリーダーであった金劍嘯に関する考察が、『満洲という遺産』と題する論文集の1編として上梓される予定である。

③ 研究分担者の大久保は、ハルビンの実地調査・文献調査に関わるかたわら、これまでの研究活動のなかで培ってきた日中両国研究者の学術交流を積極的に推進してきた。2017年と2018年二度にわたり国際シンポジウムを日本で開催し、2017年に国際共同研究活動の一部成果となる著書『偽満洲国的漢語作家和漢語文学』などをハルビンの北方文学出版社から刊行した。

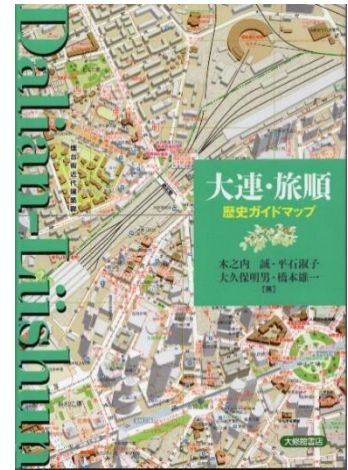


図7 『大連・旅順歴史ガイドブック』大修館書店、2019年刊



図8 失われたふるさと旅順の旧宅『大連・旅順歴史ガイドマップ』第21図より調製

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 22
2. 論文標題 “視線”と“声音”はハルピンをどう体験したか 中国人作家爵青あるいは音楽団体口琴（ハーモニカ）社の作法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合文化研究（東京外国語大学総合文化研究所）	6. 最初と最後の頁 92-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平石淑子	4. 巻 4
2. 論文標題 蕭軍・蕭紅と青島 生活と創作	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国東北文化研究の広場	6. 最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石淑子	4. 巻 68
2. 論文標題 蕭紅・蕭軍往復書簡 北京 上海 翻訳と注釈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本女子大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 85-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石淑子	4. 巻 38
2. 論文標題 塞北の詩人、宋小濂 郷土への思い	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学中国文学会報	6. 最初と最後の頁 19-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木之内誠	4. 巻 197
2. 論文標題 阮玲玉と『良友』の路地裏 - 上海モダンの「かくれた次元」としての空間性をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神奈川大学人文研究	6. 最初と最後の頁 119-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石淑子	4. 巻 63
2. 論文標題 “春水” 雑感	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛心	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石淑子	4. 巻 67
2. 論文標題 東京から(下) - 蕭紅書簡 翻訳と注釈	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本女子大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 55-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木之内誠	4. 巻 29
2. 論文標題 都市の時空景観的情報の定着と可視化の試み - 上海・大連の歴史地図制作を例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 NEWS LETTER近現代東北アジア地域史研究会	6. 最初と最後の頁 59-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄一	4. 巻 2
2. 論文標題 幸徳秋水と現代世界～戦争、庶民、アジア～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教授用資料版 日本をたどりなおす29の方法	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石淑子	4. 巻 66
2. 論文標題 東京から 蕭紅書簡(上) 翻訳と注釈	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本女子大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 75-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 大久保明男
2. 発表標題 中国東北文化研究中的的空缺和断裂、誤區與禁區
3. 学会等名 東北文学与文化国際研讨会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 植民地青島へ越境横断する言語 - 時間と地理への往来あるいは中国東北、山東半島からみる -
3. 学会等名 日本比較文学会 第81回全国大会 ワークショップ「青島をめぐるドイツ・日本・中国の文化的記憶」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本雄一
2. 発表標題 「断続的」植民地期の青島と東北 - 1920年代のひと、言語、メディア言語の往来 -
3. 学会等名 「満洲国」文学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木之内誠
2. 発表標題 從中国近現代都市的歴史地図系列的制作經驗來談
3. 学会等名 上海城市研究新動向 ” 學術研討會 (國際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大久保明男
2. 発表標題 中国語新聞や文芸雑誌より見る満洲の言語風景
3. 学会等名 第8回アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大久保明男
2. 発表標題 戦後日本の「満洲」叙述及其在文学上の表露
3. 学会等名 華東師範大学人文社会科学「百場校級學術講座」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木之内誠
2. 発表標題 折射多層次的歴史地図制作 - 以上海、大連為例
3. 学会等名 “近代中国與東亜 - 新史料與新視点” 學術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 木之内誠
2. 発表標題 都市の時空景観的情報の定着と可視化への試み - 上海・大連の歴史地図制作を例として
3. 学会等名 近現代東北アジア地域史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 橋本裕一
2. 発表標題 植民地のあいだを移動する 遼東半島 - 山東半島にかんする「文学」表徴の例
3. 学会等名 「青島・烟台をめぐるドイツ・日本・中国の「文化的記憶」研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 木之内誠、平石淑子、大久保明男、橋本雄一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 大連・旅順 歴史ガイドマップ	

1. 著者名 李光平、金富子、中野敏男、橋本雄一、飯倉江里衣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 185
3. 書名 「満洲」に渡った朝鮮人たち -写真でたどる記憶と痕跡	

1. 著者名 柳書琴編、大久保明男、柳書琴ほか15名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 台北・聯經出版	5. 総ページ数 490
3. 書名 東亜文学場 台湾、朝鮮、満洲の殖民主義與文化交渉	

1. 著者名 木之内誠、松重充浩ほか5名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 313
3. 書名 近代中国都市案内集成第4 3巻旅順戦蹟読本、解説・年表・地図	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大久保 明男 (Ohkubo Akio) (10341942)	首都大学東京・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	橋本 雄一 (Hashimoto Yuichi) (30305403)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

